

江原府志

十九上



Z10  
Z10  
Vol 16



部  
番  
号

明治廿年正月廿日

寄	明治廿年正月廿日
贈	大正七年六月八日

江源武鑑卷第十五上

元龜元庚年 永祿十三年改号元龜

正月大

朔日ヨリ五日ニ至テ天氣晴觀音城出仕ノ

次第例年ノコトレ記ニ不及

六日屋形佐々木宮杜參國中ノ旗頭等不殘

供奉ス當年ハ青山内膳正信兼御調度掛ノ

役ヲツトム和田權守此役タリニ病氣ニ依

テ青山此役ヲツトムナリ

八日屋敷江陽ノ八幡宮へ社參午刻雪下ル  
十一日御旗ノ祝ニ依テ國中ノ旗頭等觀音  
城ニ出仕ス今年澤田武藏守秀忠御旗ノヒ  
ツラ奉テ御國ノ間ノ床ニ立ツル堀伊賀守  
信武毎年此役タリシカ去年勢州大河内ノ  
合戰ニ痛手負テ同十二月九日ニ伊賀守  
卒スルノ間今年澤田武藏守ニ仰付ラル此役  
ハ子細多キニ依テ殊其人ラヨラノ三玉フ事ナリ  
十五日屋敷進藤山城守ヲ京都ニ上仕ラル

年頭ノ御名代ナリ

同日東ノ方ニ青氣アリ牛角ノ如シ

二月大

四日織田家ヨリ使節アリ今月廿日上洛ア  
ルヘキトノ事也密狀アリ使ハ不破河内守  
ト云者也

十日大雨下ル白毛ヲ下ス四五寸甚天下ノ  
不吉ノ兆ナリト云

廿二日織田家岐阜ヨリ江陽ニ來リ玉フテ

常樂寺ニ宿ス今日屋形織田家ヲ觀音城ニ招請シテ種々ノ御遊アリ強力ノ若兵ヲスクツテ組打ノ會アリ

九五日江陽尾陽ノ兩將上洛有テ織田家ハ東福寺ニ着座江陽ノ屋形ハ南禪寺ニ着座レ玉フ

九七日尾陽江陽ノ御兩將二條ノ御所ニ出仕同日酉刻ニ兩將各御陣所ニ力ヘリ玉フ

三月小

二日屋形京都ヨリ江陽ニ力ヘリ玉フ信長ハ未在京ナリ

三日佐久木郷祭礼例年ノコトレ屋形社參旗頭等供奉ス午刻神輿出御天氣晴

十日淺井下野守祐政上箕浦次郎左衛門ト知行サカイノ論有テ今日兩方觀音城ニテタケツアリ箕浦非分ニ依テ論スル所ノ山五箇所ヲ淺井ニ下レ賜ル箕浦父祖ノ忠功ヲ申上テ非ヲ利ニ立シトレテ荒吉ス依

乏屋形ノ御氣色惡ク成テ箕浦勘氣ヲ蒙ル  
九日京都ヨリ織田家ノ使節來ル三好ノ殘  
黨追討ノ評定可有トノ事ナリト云

九三日江陽威徳院炎上ス此寺ハ屋形ノ御  
先祖雪江崇永ノ御取立ノ寺ナリ依之代々  
ノ屋形菩提所ナリ炎上ノ事彼寺ノ沙門傳  
空院醉狂ニ依テ寺門ニ火ヲ放ストナリ委  
細寺中ヨリ言エス屋形酒ニエイヌル者其  
科十レ國ノ拂ヘキトノ事ナリ淺井備前守

申上ルハ沙門ノ禁メニ首ヲハ子ラレ可然  
ト云屋形不請備前守ヲせメテ曰汝甚不仁  
ナリト仰玉フ屋形第一慈悲深キユヘナリ  
廿七日屋形近習計ヲ引卒レテ上洛アリ南  
禪寺ニ着セ玉フ  
九八日將軍家御所ニテ尾陽江陽ノ兩將評  
定ノ事アリ

朔日江陽尾陽ノ御兩所泉州堺ノ津へ御立

四月大

アル彼所ニ於テ町人等ノ持傳ル名物共ヲ  
取寄見玉フ勝タル道具多ク織田家是ヲ取  
テアタヒニ金ヲ與ヘラル江陽ノ屋敷ハ三  
條宗近力打タル太刀一振計ヲ取り玉フテ  
金五百兩ヲ與ヘ玉フ松屋道圓ト云町人此  
太刀ヲ持傳ルナリ  
十月兩將泉州ヨリ入洛ス朔日ヨリ九日ニ  
至テ兩將泉州ニ於テ種々ノ遊真アリ記ニ  
イトマナシ

十四日將軍家ヨリ江陽尾陽ノ兩將ヘ御能  
ヲ見せ玉フ公家武家共ニ集ル午刻ニ將軍  
自ラ藤戸ヲ下イ玉フ江尾ノ兩將モ同ク高  
砂老松ヲ下エ玉フ太夫ハ觀世今春兩太夫  
一番カハリニ御能ヲ仕ル洛中ノ貴賤御庭  
ニ伺公ス前代未聞ノ見物ナリト云  
丹日尾陽江陽ノ兩所ニ條將軍家ノ御所ニ  
於テ評定有テ越前ノ朝倉父子終ニ將軍家  
上洛有テヨリ一度モ使節ヲ進上セスカヘツ

テ三好山城守ト内通シム木ニノクワタテ  
アルノヨレ事既ニ定テ彼國退治アルヘキ  
トノ事ナリ今日將軍ノ仰トレテ兩將京ヲ  
立テ越前退治ニ向ニ玉フ織田家ハ大原越  
ニカレツテ若狭ニ打入越前ヘ攻入玉フ江陽  
ノ屋敷ハ近江路ヨリ若狭ニカ、リ熊川ニ  
打入越前ヘ向ニ玉フ

六三日改元号元龜

廿五日江陽尾陽ノ兩將越前國敦賀ニ著陣

有テ軍評定アリ

同日朝倉ヨリ敦賀在番ニラキナル大閥守  
美濃守降人ニ成テ出ケルニ依テ近邊ノ者  
共多味方ニ下ル者多シ

廿六日手筒山城ヲ先攻ヘキ土テ江陽ヨリ  
ハ進藤山城守後藤喜三郎山崎源太左衛門  
馬渕伊賀守日賀田攝津守ニ八千五百騎ヲ  
サレソヘ向ケラル尾州ノ手ヨリハ佐久間  
右衛門織田上野介猪葉伊豫守木下藤吉丹

勅 五郎左衛門ニ九千三百騎ヲサエリヘ向  
ラル兩方ヨリ平攻ニスルニ依テ城中コラ  
ヘス辰剋ヨリ未剋ニテノ合戰ニ城中一人  
モ不殘討死ニ城ニ火ヲ放ス此城ハ朝倉ノ  
家人寺田采女正ト云者四十二テカヘタル  
城十日

一 今日ノ合戰ニ味方ニ討取首共千四百五  
十三ハ江陽ノ手ニ取之三千三百八尾陽  
ノ手ニ取之雜人共ニ

廿七日兩將評義有テ朝倉中勢大夫力籠タ  
ル金崎城ヲ攻玉フヘキニ定テ今日午剋ニ  
人數ヲ向ケ玉フニ中勢大夫降參シケルニ  
依テ合戰十日

同日金崎城請取ニ織田家ヨリハ瀧川左近  
將監山田三左衛門江陽ヨリ池田孫次郎  
木信濃守ラツカハシ玉フ城ヲ請取門戸ヲ  
タキクツニ破リステ又  
廿八日觀音城在番ニキ玉フ密井備前守

カ方ヨリ早馬ヲ打テ敦賀ノ陣前へ告來ル  
密狀ヲ以テ備前守屋形ニ言上致ス事アリ  
使ハ淺井雅樂頭ナリ

同日夜ニ入屋形俄ニ越前退治ノ勢ヲ引取  
テ江洲ニカヘル織田家使節ヲ以テ其事ヲ  
聞ク屋形ノ目信長ハ是ニ對陣ヲ張リ玉ヘ  
吾ハ存旨有リ先歸國スナリトテ江陽ニカヘル  
廿九日淺井父子江洲高鳴郡一テ出向ヒテ  
屋形小谷城へ入奉リ四十六人ノ旗頭等ヲ

集メ淺井備前守言上申ハ時ハ今ニ候ナリ  
信長ヲ退治有ヘキナリ越前朝倉義景ヨリ  
吾等父子一テカヤウノ事仕テサレコレ  
候トテ一通ノ起請文ヲ屋形ニ献ス其起請  
文ニ曰義景申通スル意旨神明ニカケテ存  
スルナリ信長退治ニラヒテハ江陽ノ御旗  
下ト成テ忠戰有ヘキナリ若洲ノ武田義統  
越後ノ長尾謙信甲州ノ武田信玄モ内々此  
所存タルナリトノ事大方起請ノ通如レ此奏

クハ密事ナレハ日記ニノセカタニ江陽ノ  
旗頭中一同ニ申上ルハ今此時ニ信長ヲ退  
治有テ屋敷天下ニ旗ヲ上ナ玉ヲナラハ一定  
天下ヲ治メ玉フヘキ也ト云淺井長政達テ  
屋敷ニ諫言レ奉ルハ兩雄勇ヲ争フ事昔日  
ヨリ申傳ルニ「トシテ不違高時云テ後義  
貞高氏兩勇ヲ争フテ終ニ義貞士ニシハ度々  
ノ軍ノ圖ヲ逃レケルニ依テナリ今ツラく  
世ヲハカリ見ニ將軍家不仁ニテ渡リ玉ヘ

五年ト世ヲ治メ玉フヘキ人共不覺其上信  
長内心ニハ我力天下トせント思フ事眼前  
タリ一屋敷ノ御身ニタレシ信長ヘ御遺  
恨多シ  
一先年將軍家再上洛ノ事ハヒトヘニ皆江  
陽ヨリノ御勵ナリシニ信長ニハ東海道  
十五箇國ノ管領職ヲ玉リ屋敷ニハワツ  
カ北陸道七箇國ノ管領ヲ玉ル事是一ノ  
御得キトナリニアラスヤ

一信長近年ノ勵ヲ見候ニ諸事雅意ニシテ  
天下ノ事吾一人ノ儘ニレナシ候往々ハ  
家礼等二大國ヲ與ヘ吾エツホニ引カケ  
タル時ハ親子ノ如クニ候屋敷ヲモ旗下  
ニ付シ事一定ナリ

一今越國之面々屋敷ヲ大將トシ天下ニ旗  
ヲ擧ント起請文ヲサシ越ス事ヒトヘニ  
是天ノ與フル天下也此時ヲ逃レ王フナ  
ラハ北國ノ面々當家ノ御子矢ヲアナト

リ重テ思召立共何ノヤウニ力立ヘキ事  
ナリ前ニ此處に於テ  
右ノ外種キ信長ノ非ヲ申上テ終屋敷ト信  
長トノ御中不和ニ成ル

五月小

二日屋敷小谷ノ城ヨリ觀音城ヘカヘリ玉フ  
同日越前ノ朝倉左衛門佐義景ヨリ使節ア  
是ハ今月五日義景敷賀表ヘ出張有ヘキナリ  
事也

三日屋敷淺井父子ヲ觀音城ニ呼テ曰朝倉  
今五日敦賀表ヘ出陣シ信長ト一戰有ヘキ  
トノ事汝父子ハ高嶋八人旗頭等ヲアイク  
シテ四日ニ七里半越ニカヘリ朝倉子合ト  
レテ出陣スヘキトノ事ナリ淺井祐政同長  
政仰ヲ兼テ觀音城ヲ退テ小谷ニカヘリ勢  
ヲ集ムルナリ

四日越前ヨリ使節アリ朝倉ノ密狀アリ使  
節大陽寺刑部少輔語テ曰信長今日卯剋ニ

敦賀表ヲ引拂若狭越ニカヘリ京ニ入ルト云  
同日越前ノ使節ヲカヘサル

同日未剋淺井下野守祐政父子ニ高嶋八人  
衆ヲサレソヘラシテ敦賀表ヘツカハシ玉フ  
六日敦賀ヨリ淺井父子使節ヲ以テ屋敷ヘ  
注進ス信長此表ヲ引拂ヒ若州ノ武田義統  
ヲ攻落シ敦賀表ニ木下藤吉郎ヲ越前勢ヲ  
サヘトシテ歎レラキ候ヲ昨日ヨリ朝倉ノ前  
手朝倉左京進攻力、リテ候ニ木下カ勢大

キニ利ヲエテ候ユヘニ朝倉ノ勢是ニ氣ヲ失フテ候明日當國ノ勢ヲ以テ一軍可仕ト存事ニ候

一若州ノ武田義統ハ家礼粟屋越中守信長ヘウラカヘリ候ユヘニ手モナク武田利ヲ失フテ國ヲ退キ候也

一信長ヲサヘノ勢ヲ攻討候テ歸國仕ヘキト存事ニ候

一信長ハ將軍家ト一手ニ成テ江陽へ向フ

キノ事ニテ候ト風聞兼候ナリ相坂八番手ニ加勢ヲツカハサレ可然候

右ノ旨ハ淺井父子敦賀ヨリ屋敷へ注進ノ旨如此

八日敦賀ヨリ淺井父子屋敷へ注進ス昨七日信長ヲサヘノ勢ヲ攻討候テ味方ヘ首數七百五十討取大將木下藤吉ハ五十騎計ノ勢ヲ引具シ若州越ニ京ヘニケ退キ申ノヨ注進ス

同日酉刻ニ屋形使節ヲ若州ヘツカハシ武  
田義統ヲ江州ヘヨヒ取玉フ

十日敦賀表ヘツカハシ玉フ淺井父子高嶋

八人衆今日觀音城ヘカヘリ來ル

十一日屋形淺井父子ニ賞地ヲ興ヘ敦賀表

ノ勵ヲカシレ玉フ

同日高嶋八人衆ヘモ賞地ヲ下玉フ

九五日天下ニ旗ヲ立ラルヘキトノ事ニテ  
國中ノ馬达アリ同日人數ノチヤクタウヲ

羽玉フニ五万四千騎アリ

卅六日香津ノ目代畠勘六左衛門秀氏信長

ヘウラカヘルノヨニ淺井下野守カ方ヨリ觀  
音城ヘ注進ス屋形淺井ニ仰付テ討ヘキト

ノ事ナリ

九七日香津ノ目代畠勘六左衛門千クテニ

スルノヨニラ注進ス此者信長ノ家人ノ内

津田權内ト云者ヲ聟ニ取テ信長五万貫ノ

ヤクソクニテ如此ナリ

九八日日野蒲生右兵衛大夫達心ノヨシ告  
來ル同日ニ進藤山城守ヲ日野ヘツカハニ  
蒲生ヲ誅罰スヘキトノ事也蒲生達心十キ  
ニ定テ嫡男忠三郎ヲ人質ニ進上ニ靈社ノ  
起請文ヲ屋形へ上ク依之彼表合戰ナクレ  
テ進藤人質ヲ召連テ觀音城ニハセカヘル  
六月大

朔月信長京ヲ立泉州ニ出張シ勢州ヨリ美  
濃國ヘカヘリ入ルノヨシ今日京都六角ノ館

手番手ニ候馬渕源太郎カ方ヨリ屋形ニ注  
進ス同月根來寺ニカクレ居玉フ御當家ノ氏族  
後見ノ義頼父子今日江東觀音城ニ來テ永  
原大炊頭ヲ以テ屋形中和ノ事ヲ請ヒ玉フ  
其詞ニ曰義頼屋形ト中絶シ國ヲ退クトイ  
ヘトモ今度織田家ト屋形ヲ矢ヲ取玉フト  
イヘハサスカ當家ノ嫡領ヲ他所ニ見奉ヘ  
キニアラス此度義頼父子天下ニキツテ上リ

玉フナラハ是非共先手シテ年來ノ耻辱ヲ  
雪キ屋形ニ無ニノ忠義ヲせントノ事ナリ  
屋形其人ノ志ヲカシムアタラハ恩ニテム  
クニル也トテ中和レ玉フテ野須郡立入城  
ヲツカハシ玉フナリ

四月兼頼父子八千騎ニテ美濃國へ出張仕  
度ノヨエラ屋形ニ告玉フ屋形其事ヲ不免  
同日信長ノ家人柴田修理佐久間右衛門九  
千三百騎ニテ去月ヨリ京都ニ信長サレヲ

キケルニ今日不意ニ立テ兼頼ノ居城ヘラ  
シ寄ス兼頼父子門ヲ開キ討テ出合戰スル  
ニ兼頼ノ旗頭三雲三郎左衛門父子高野瀬  
美作守水原遠江守深入シテ討レ又敵是ニ  
氣ヲエテ本丸ヲテツメ寄せタ、カウニ兼  
頼早馬ヲウツテ難義ニ及フノヨシヲ觀音  
城ヘ注進アル依之屋形進藤山城守ニ七千  
五百騎ヲサレソヘラシ立入ノ城ヘツカハスニ  
敵觀音城ヨリ助勢ヲ見テ引取テ京へ退ク

ニ追討ニ討テ山科マテ追ツメ首八百五十  
三討取ル

同日ニ山科ニテ歔取テ返シ江州ノ勢ノマ  
ハラニ追フテ來ルヲ見テヒカヘテ合戰ス  
ル事アリ是ヲ山科合戰ト云也歔半ウタレ  
テ京ニ退ク

七日美濃前國守齊藤右兵衛大夫龍興今自  
江東ニ來テ郷味方成ヘキトノ事ヲ立入ノ  
秉楨公ヲ以テ屋形ニ告ク屋形年來傳聞ク

所ハ龍興ハ甚不仁者ナリトテアイ玉ハス  
齊藤面目ヲ失フテ津國へ退ク京極長門守  
高吉屋形ニ諫言シテ曰乱國ノ時ハ治國ニ  
替テ衆ヲ善惡ニカマワス集ルヲヨキト云  
ニ龍興ヲホイナク返シ玉フ事不好ト云屋  
形ノ曰乱國ナリヘ共不仁ノ者ヲ國ニラク  
時大キニ損アリ一ニハ諸人惡ニハカタムキ  
安キニ依テ彼カ姪行ナルニナラツテ血氣  
ノ若兵ヲハ必ス忠義ヲ失フ者ナリニニハ

江源文庫卷十五  
真ナキ者ニ何ソニ心十カラニヤ三ニハ邪  
惡ノ者ハ殊ニ乱國ノ時ニハ討ノサニタテ  
ト成事多ニト仰玉ア  
十五日淺井下野守祐政息備前守長政力方  
ヨリ同名雅樂頭ヲ以テ今月屋形へ注進シ  
テ曰信長美濃居張三川遠江四箇國ノ勢ヲ  
集メテ八万騎ニテ今月十九日岐阜ヲ立テ  
當國へ出陣ノヨシ傳來ルノ間近日淺井父  
子ハ美濃國へ出陣仕カレカ上洛ノ道ヲ丹  
勢ヲ引請ルナリ

十九日信長八万騎十三備ニテ近江退治ト

レテ岐阜ヲ立テ今日黒知川ニツク  
八日信長評義レテ先淺井父子ヲ退治シテ  
後ニ觀音城ヲ攻ヘキ十テ今日小谷ヘ使節  
ヲ立ル

同日信長ノ使節ヲ淺井力館ニテ討テスツ  
屋形ノ御サレツニ依テ如此

九日信長小谷ヘ押寄鯨波三調ス浅井兼  
テ屋形ト示合ノ上一人モ人數ヲ不出是ニ  
歟氣ヲエテ小谷口ヘ至殘勢ヲ入テ合戰ス

淺井兼テヤクソクノレルレノ旗ヲアタ屋形  
五万騎ヲ三手ニ十レテ小谷表ヘ出張十リ  
信長大キニ行違テ勢ヲ引取ラントスルニ淺  
井一万五千騎ヲ二手ニナレテ屋形ノ本陣  
ヘカケ入テ二成是ヨリ江州勢六万騎七  
手ニ分ツテ信長ト合戰ナリ今辰ヨリ酌  
剋ニテ合戰スルニ信長ノ人數二千五百騎  
力首ヲ江州ヘトル味方八百騎討死ス今日  
ノ合戰酉剋ニヤム

九二日 信長難義レテ勢ヲ引取ントスルニ

屋敷再拜ヲ取テ七手組ヲカケ玉フニ目賀

田嶋津守馬渕伊豫守伊庭丹後守三井出羽  
守三上伊賀守落合佐渡守池田筑前守其勢

一万八千騎信長引タル勢ニヒシト付テ追

討ニ戰フニ淺井父子一万五千騎罐ヲ一面

二十ラヘ南北ヨリ横ヤリニ成テツキカ、  
ル是ニ信長勢難義レテ信長自ラ下知レ

テ五千三千ツ、クリ引ニテ退クニ淺井力

ヨコヤリヒーナク追ツメ、戦フニ依テ信長  
自ラ戰フ事今日ノ合戰ニ三度ニテアリト  
也信長一代ノ内ニ難義せし合戰ナリ既ニ  
信長打死セシトスルニ佐久間右衛門ト云  
信長トリ立ノ者手イタクカヘシ合テ戰フ  
テナンナク信長ヲ岐阜ヘ引取セケルナリ  
今日ノ合戰ニ江州へ能三千四百五十三討  
取信長多勢ニテ近江ヘ向フニ今度木トラ  
クレヲ取タル合戰ハ十シトテ落書ニ

武士ノ其ヲタコテヲフリ捨テ命計ハ三ノヲワリテ  
今度ノ合戰ニ信長ノ本陣クツレ美濃尾張

ノ兵共多ク國ヘニケタルニ依テ如此力

江陽ニテ六月廿一日二日ノ大合戰ト後一  
テ小童ノ口ニテニ語傳ルハ此合戰ナリ  
廿三日屋形今度兩日ノ合戰ニ忠功ノ面  
ニ今日賞ヲ與ヘ玉フ勵ノ甚キ面ニハ御  
感狀ヲ賜ル淺井父子ニハ當家武士ノ捷業  
タルトノ御書ヲ賜ルナリ

九四日淺井父子觀音城ヘ出仕ス屋形ニ注  
進スルノ條々ハ信長今度ノ合戰ニ利ヲ失  
フ間押付勢ヲモヨラレ當國ニ乱來ヘレト  
京シノ間朝倉方へ加勢ヲヨイ玉フヘキ事也  
朝倉モ内々御左右次第ニ出張有ヘキトノ  
事ナリト云屋形此事ニ同意レテ澤田武藏  
守ヲ越前ヘツカハレ玉フ密狀アリ不知  
同日相坂番手ノ面々江西ノ旗頭等不發江  
東ニ呼取玉ヒテ美濃國ヨリノ道中城ぐニ

加勢ニ入玉ス

六五月越前ヨリ使節來ル信長出張仕ニ於  
テハ何時モ義景加勢ニ參陣スヘキノヨシナリ  
同日大洪水酉刻東南人船ニ旗雲三筋立リ  
崩剋ニ南ヨリ消失ス

六六月信長速三尾ノ矢ヲ岐阜ニ集テ近日  
江州ヘ向フヘキ評定スルノヨシ黒知川ノ  
番手ヨリ觀音城ヘ注進ス

同日星形旗頭等ヲ觀音城ニ集テ信長嘗國

ヘ向ヒ來ヘキトノ事ニ付テ合戰ノ評定アリ  
淺井備前守進出テ言上スルハ毎度此方ヘ  
引請合戰有ヘキト云進藤山城守カ言上ス  
ルハ信長定テ今度ハ多勢ニテ來ルヘレサ  
アランニ於テ以前ノ合戰ニ利ヲ失フテ候  
ヘハ深入スレキナリ此方ヨリ美濃國ヘ  
御進發可然ト云ニ淺井カ云ク國サカイニ  
テ一軍ニテワサト勢ヲ打入ニ時信長勝ニ  
ノツテ追ヘシ其時返シ合クテ軍レテフ

カクト國十カヘ打入サセテ小谷ヨリ觀音  
城ヘカ、ル勢ニ横鑓ニツキカ、リ候ハ又  
當家ニ大利有ヘシト云何モ旗頭等其義ニ  
同ス屋形モ淺井カ行ヨシト仰ラル淺井諸  
事今度信長トノ鄉合戰ノ事ニ依テハ憚ル  
所ナク毎度行等ヲ屋形ニ言上スルニ一度  
不中ト云事ナレ江州ニテ淺井備前守長  
政ハ武勇全備シタル男也トテ屋形大公望  
ナリト賞レ玉フ寂其器ニ當リタル人ナリ

一 淺井父子事父下野守爾度ニテ九歳ヨリ  
内ニテ大功アルニ依テ前屋形義實公、  
御時ニ小谷ノ城ヲ玉リシ人ナリ小童ノ  
時小熊丸トテ前屋形ノ小姓ナリ

一 息備前守長政ハ當屋形ノ近習ニテ小童  
ノ時ハ用猿ト云シ人ナリ十三ニテ野田  
合戦ニ大功ヲアラハシタルニ依テ十三  
ノ時北郡ノ總旗頭ヲ仰付ラレシホトノ  
人ナリ軍學シテ兵術ヲヨク學エタル勇

士ナリ

江源武鑑卷第十五上

終

江源武鑑卷第十五上

終

江源武鑑卷第十五上 終

元音記

江源武鑑卷第十五上 終

